

行財政改革・大都市制度調査特別委員会  
天竜区の取り扱いへの確認・質問事項

【会派名：創造浜松】

No.	確認・質問項目	内容	理由 (内容だけで判断できる場合は記載不要)	回答	担当課
1	◇ 人口について	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜区においては、2020 年において生産年齢人口より老年人口が上まわっており、75 歳以上においても 2035 年に上回る見込みである。</li> </ul>	<p>左記のような状況にあって、民生事業や住民自治・地域環境・防災などが地域完結・維持・整備が可能であろうか？</p> <p>また、合併以降人口減少率が 27.9%と突出し、今後も勘案する時、副市長、区長等の役職のほか、専門職を配置し続けることになるが、可能か？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区の再編により、人口減少や少子高齢化などにより激変する社会経済状況や市民ニーズに合わせ、市の裁量で臨機応変にサービス提供体制や職員配置を最適化できるしくみを構築し、持続可能な行財政運営を行うことを目指している。</li> <li>天竜区の特殊性、厳しい生活環境を支え、地域課題をどのように解決していくかは大きな課題であり、安心して暮らしていけるまちづくりが必要である。</li> <li>課題解決に向け、天竜区を単独区とし担当の副市長を配置することや福祉事務所を本庁組織とすることなどを提案しているが、行政組織や運営体制は必要に応じて適宜見直ししていくことを前提としている。</li> </ul>	区再編推進事業本部各所管部
		<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜区においては、2035 年には年少人口が 1,061 人、2040 年には 1,000 人を割り込む見込みであり、学齢人口数においては尚更である。</li> </ul>	<p>学校数・学級数を考えた時、遠くない将来に更なる学校等の統廃合も考えられ、単独案においては区をまたぐケースも考えられるのか？それに伴い、子育て世代の人口移動を如何に考えるのか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天竜区に所在する小中学校からの通学距離や通学時間を考慮し、基本的に区をまたぐ統廃合のケースは考えていない。</li> </ul>	学校教育部
2	◇ 副市長について	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合案においても必要と考える。</li> </ul>	<p>現在は、副市長以下縦割りの構造の中で職務をしている。市民に近い・現場の部署からの視点は、住民自治を始め</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専任の副市長は、天竜区役所に配置して、天竜区の様々な課題や特性に対し、現場に近い場所で、現場に即した迅速な行政サー</li> </ul>	区再編推進事業本部

				<p>として今後非常に重要になってくる。そこで、複合案にあっても“横ぐし”を刺す副市長の存在は欠かせないと考えるが如何か？</p>	<p>ビスの提供、行政課題の解決に取り組むものである。その上で、天竜区のみならず、全ての区を統括し、各区の共通課題や特性に応じた事業執行など、最適な区政運営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こうしたことから単独区の場合、担当の副市長を配置することを提案している。</li> </ul>	
3		◇ 水道について	飲料水供給施設について	<p>北区の一部にも天竜区と同様な課題がある。区での対応を考慮すれば複合案に理があると考えが？更に、維持管理が不可となった時の対応は？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天竜上下水道課が飲料水供給施設の全体を所管し、現在でも施設のハード面及びソフト面共に市が助成を行い、支援をしている。</li> </ul>	上下水道部
4		◇ 平等・公平性について	<p>将来の住民自治や行政との関係性、他地域と平等・公平性については如何に考えるのか？</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・区協議会によって地域住民の意見を市政に反映する仕組みを確立している。再編後は、協議会を2層にし、その仕組みを強化していく。</li> <li>・天竜区は全域が中山間地域であり、また、市内で唯一過疎地域を抱えており、都市部に比べ生活環境に差があることから、法令に基づく財政上の特例（過疎債の発行）や市議会の議決により特定地域を対象とする条例を制定するなどしている。</li> <li>・今後も過疎があるという現実を潜在化させることなく、地域特性を踏まえ、施策を展開していく必要がある。</li> </ul>	区再編推進事業本部各所管部
5		◇ 削減効果額について	<p>6案それぞれに削減効果額があるが、如何に評価をしているのか？</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の数が少ないほど、組織の統合によるスケールメリットが大きい。</li> </ul>	区再編推進事業本部

6		◇ 予算について	道路・橋りょうはじめとするインフラ整備、医療・交通機関などの社会インフラの脆弱性、森林・河川整備、森林活性化等々の予算上の確約は如何に？	単独となった場合、副市長を置き、独自の施策を取り組むことは、今までより可能になるかもしれないが・・・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区長は区における行政の総括責任者として、区内で実施される事業が円滑かつ効果的に展開されるよう、必要な総合調整を行う権限を有しており、予算編成などにおいて、本庁等に対し必要な措置を要請することができる。</li> <li>・区や各部局でとりまとめられた予算案は財務部長、副市長、市長が査定・編成し、議会に提案することとなるが、編成作業を通じて各区役所のニーズや地域課題を的確に把握する担当の副市長が携わる。</li> </ul>	区再編推進事業本部各所管部
7		◇ 天竜区民の生活の確保について	すでに、買い物・医療・教育・福祉サービス難民など、安心して生活ができる環境が損なわれつつある。デジタル化などで課題解決を模索している現状はあるが、区再編を契機に、難題ではあるが、何らかの方向性を示す必要がある。	区再編を契機に、行政としての限界はあるものの、行政組織のあり方を考え直し、少しでも具体的な施策・方向性を示す必要があると考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全域が中山間地域である天竜区における諸課題への対応については、中山間地域振興計画に基づき様々な事業等を実施している。</li> <li>・計画の基本理念である「ひとつの浜松で築く中山間地域の未来」に基づき、これからも取り組んでいくが、こうした課題解決に向けて副市長の配置は有効な手段と考える。</li> </ul>	区再編推進事業本部各所管部
8		◇ 協働センターについて	区再編に伴い、更に協働センター機能を充実させること。	特に中山間地域においては行政との関りが欠かせない。その中でも広域な天竜区にあっては旧市町村ごとの行政機能の強化が欠かせず、その一翼を担うのが、協働センターだと考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議の前提条件である「市民サービスは低下させない」を踏まえ、現在の第1種協働センターにおいて地域固有の業務を引き続き提供することとしている。</li> <li>・従来どおり、コミュニティ担当職員が地域と行政（本庁や区役所）のパイプ役となり、相談があった場合は専門組織へ繋いでいく。</li> </ul>	市民部